

Title	「未来の動物の謝肉祭」：福井県立音楽堂開館20周年記念公演における映像と音楽の共演
Author(s)	川島, 洋一; 松原, かおり
Citation	デザイン理論. 2019, 73, p. 98-99
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/71204
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

「未来の動物の謝肉祭」

— 福井県立音楽堂開館20周年記念公演における映像と音楽の共演 —

川島洋一・松原かおり 福井工業大学



「未来の動物の謝肉祭」ステージ風景

2017年9月23日（祝）、福井県立音楽堂「ハーモニーホールふくい」の開館20周年記念公演が開催された。この公演では、福井県内の中学生、高校生たちが制作した美術作品を福井工業大学デザイン学科の学生が映像化し、プロの作曲家およびオーケストラによる演奏とコラボレーションする総合芸術作品を創りあげた。

本作品では、フランスの作曲家C.C. サン＝サーンス（Charles Camille Saint-Saëns, 1835-1921）の代表作である「動物の謝肉祭」をもとに、原曲に登場する各動物と対をなす相棒として新たに13種類の動物を追加し、それぞれをモチーフに新曲が用意された。さらに、

組曲としての構成上の理由により、セミフィナーレ、間奏曲、グランドフィナーレの3曲が追加された。これら計16曲の新曲を、福井県ゆかりの4人の作曲家が一人4曲ずつ書き下ろし、サン＝サーンスの原曲と合わせて全30曲からなるオリジナル組曲「未来の動物の謝肉祭」が構成された。この新曲に対して、公募で参加が決まった福井県内の中学校と高校、計16校の生徒たちにそれぞれ担当曲を決め、生徒たちの自由なイメージにより美術作品を制作してもらった。それらの美術作品をモチーフに、福井工業大学環境情報学部デザイン学科の学生が映像を制作した。

映像制作にあたっては、同大学非常勤講師



1. ステージ風景 2. オペレーション室 3, 4. 中高生・大学生・作曲家の合同ワークショップ 5. 映像撮影風景

の黒田和彦と松原かおり、同大学教授の川島洋一が映像のディレクションと制作指導、および制作マネジメントを担当した。中高生たちが構想した動物をめぐる情景とイメージは、福井在住の作家・宮下奈都氏により全体を紡ぐストーリーとして脚本化され、俳優の朗読により曲間に披露された。音楽は、指揮者と計10人のアーティストにより同館の大ホールで演奏され、映像は演奏に合わせてステージ後方のスクリーンに投影された。

今回の試みにより、クラシック専用ホールとして高い評価を受けているハーモニーホールが、たとえば有名オーケストラの招待公演のようなありきたりの手法を使わず、新しい

形式に挑戦したことで新規性の高い作品を生み出したといえる。地元の青少年の参加を前提とした企画のコンセプトは、地方都市における公共ホールのあり方にも一石を投じた。クラシック音楽と映像の融合は、今回のような同時上演だけでなく、より一体化した表現を生む可能性があることにも気づかされた。

《作品クレジット》

主催：公益財団法人 福井県文化振興事業団

共催：福井県・福井県教育委員会

プロデュース：橋本恭一

作曲：笠松泰洋・星谷丈生・旭井翔一・山下真実

映像ディレクション：黒田和彦・松原かおり・川島洋一

映像制作：福井工業大学デザイン学科

大学院生2名・学部生9名